

令和元年度 第3回松山地域協議会

日 時 令和元年10月29日(火) 午後1時28分～3時25分

場 所 松嶺コミュニティセンター

出席委員 12名

齋藤 明 齋藤 吉男 阿部 喜久子 後藤 吉史
富樫 とも子 荘司 東一 佐藤 玲子 齊藤 薫
小田 和夫 平向 邦夫 松本 允夫 本間 京子

欠席委員 3名

佐藤 徳康 樋坂 仁 佐藤 均

酒田市出席者

松山総合支所長兼地域振興課長	遠藤 裕一
建設産業課長	柿崎 弘志
地域振興課長補佐兼市民係長	五十嵐 昭一
地域振興課長補佐	出嶋 亨
地域振興課地域振興主査	齋藤 圭
地域振興課地域振興係長	阿彦 求
建設産業課長補佐兼建設係長	堀 浩幸
建設産業課長補佐兼産業係長	石川 亮一

傍聴者 1名

議事日程

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名人の指名
- 4 議 事

【協議事項】

- (1) 令和2年度松山地域づくり予算について
- (2) その他

5 その他

6 閉 会

1 開 会

(遠藤支所長)

○地域協議会開会宣言

○欠席者の確認 佐藤 徳康 委員 樋坂 仁 委員 佐藤 均 委員

2 会長あいさつ

○気象変動の激しい大変な時代を迎えている。毎週末、大荒れの天気である。

○この地域は人災のような大きな被害はないが、果樹、ソバの実の落下がある。

○今年の台風の特徴は太平洋側に抜けており、左巻きで日本列島を襲うので大変な雨を伴う。

○自分の身は自分で守ることを常日頃心掛けなければならない。

○今日は議題が1つなので円滑な進行をお願いします。

3 議事録署人の指名

○本協議会の議事録署名人 齋藤 吉男 委員

4 議 事

(小田会長)

議事に入ります。「(1) 令和2年度松山地域づくり予算について」、事務局から補足説明をお願いします。

(支所長及び建設産業課長)

～資料に基づき説明～

(小田会長)

ご質問、ご意見ありますか。

(後藤吉委員)

松嶺コミュニティは今年、松山地区全体のコミュニティ連絡協議会の当番振興会になっているが、事務局員が常に張り付いてないといけないので、出席できないコミュニティがあり、4コミュニティの事務局会議ができない状況にある。昨年度、コミュニティ施設管理費の大幅な見直しがあり、いろいろ要望は出したが、予算が既に確定している段階での見直し説明だったので、要

望は何の効果も無かった。見直しの結果を支所としてどのように捉えているのかを伺いたい。

(支所長)

今年度の予算からコミュニティ振興会への予算の見直しが行なわれている。全市統一の基準を設けた。大幅に見直ししたのは、コミュニティセンターの委託料で従来は午前9時から午後10時まで開館しているものとして算定してきたが、それを開館時間に応じて支払う方式に変更した。これが3支所のコミュニティにしわ寄せが来た一番の要因と考える。たぶん来年度予算も同様になると思われる。本協議会でこのような意見が出されたことを本庁の担当部局に伝えて、支所でもできる方策を考えていきたい。

(齊藤薫委員)

商工会代表としてこの場にいるので、影響のありそうなことを質問させていただく。デマンドタクシーについて、変更ルートについて、南部地区から直接庄内町に行くのか、それとも、松山の他の地域を経由して庄内町に行くのか、ルートが決まっていれば教えてほしい。松山地域の生活圏は大部分が庄内町にあるので地域の要望があってこのような動きになっていることはわかるが、松山地域の中でも頑張っている商店もあるので、その影響を最小限にとどめていただきたい。

(柿崎課長)

デマンドについてはルートを含めてこれから調整していく。但し、タクシーのようにまっすぐ戸口から戸口に向かうのではなく、バスのようにいくつかの拠点を経由して回ることになる。林道については現在、用地買収の最中であり、現状崩れているところを迂回する形になる。林道は樹木等の搬出を繰り返すと傷んでくるので、修繕の要望を出すようにしている。

(支所長)

デマンド交通を利用するには登録が必要で行先も予め指定されているが、特に南部地区は公共交通の便が何一つ無く交通過疎の場所になってしまっているため、デマンド交通の利用を通じて住みやすい地域にしていきたいといった思いがある。頑張っている地元の商店に影響が無いようにといった委員の意見もわかるが、すみ分けもできると思うし、これによって地元商店への影響は少ないと思う。まずは南部地区の利便性を確保することが重要であると考えている。

(柿崎課長)

この件は都市デザイン課職員と一緒にふれあい商工会へも打診しているが、賛成でもなければ反対でもないとの回答があった。

(齊藤薫委員)

南部地区からの声が強いのには理解したが、その他の地区の動向はどうか。

(柿崎課長)

南部地区からの要望の後に、いきいきくらぶの中で、意見交換を行った。ここに参加している人たちはほとんど免許を返納した高齢者だが、どこに行きたいかといったアンケートを実施したところ、かなりの人が庄内町を希望していた。

(支所長)

現在の想定では、庄内町便を検討しているということ。松山地域から酒田市内までは既にデマンドタクシーが走っているということも認識願いたい。

(小田会長)

「デマンドバス」といった言葉も出たようであるがバスもあるのか。

(柿崎課長)

デマンドタクシーというと、行きたいところにどこへでも行けるといった、いわゆる「タクシー」のイメージが強くなることから、市長からタクシーといった呼称はやめたいと言われている。そこで、できるだけ「デマンド交通」とか「デマンドバス」とか言うようにしている。

(荘司委員)

2点ほど質問と要望をさせていただく。1点目、芸術祭への支援について、支所からは広報面で手厚い支援をいただいたことに感謝する。今後とも宣伝活動は必要と考えるが、まず防災行政無線でイベント当日に広報していただけないか。2点目、市長の所信表明の中で「まちづくり協働指針の策定」ということを述べられていたが、今後どのような方向で展開されていくのか、現在の状況をお知らせいただきたい。また、この進捗状況については、逐次、コミュニティ振興会にも情報提供していただきたい。

(支所長)

市では、酒田市芸術文化条例まで作成して力を入れていこうとしている。公共性など一定の基準をクリアする内容であれば、防災行政無線の活用は可能である。

(出嶋補佐)

まちづくり協働指針について、所管課であるまちづくり推進課に確認したところ、今年2月に勤労者福祉センターでコミュニティ振興会の職員に参集いただき、指針策定のためのワークショップを開催したが、まちづくり推進課では現在、その内容について精査中とのことであった。今後については、今年度中にまとめて庁内会議に諮り、来年度からは指針に基づいて進められるような段取りで作業が進められているということであった。

(後藤吉委員)

ワークショップに自分も参加したが、1市1制度という行政的な発想からすれば、今後、地域

をどのようにもっていくのかという観点から考えると、地域の実情にそぐわないことも出てくる。例えば、山地排水をどうするかといった課題は市街地には存在しない。地域ごとに課題を捉えていかないときちんとした形での地域振興策になっていかないと思う。このことは支所からも声をあげていただきたい。さらに今回の台風では、あちこちで堤防の決壊があり想定外の災害をもたらしている。松嶺地域で言えば、最上川の水位が上がると、総光寺沢、竹田川の水が最上川に入らなくなり水が溢れてくる。松山地域でも昭和46年に大きな水害があったが、それを体験している人も少なくなってきたなど、地域住民の間でも災害に対する危機感が希薄になりつつあることは否めない。現在、指定避難所になっている松嶺コミュニティセンターや松山農村環境改善センターは避難所として果たして妥当なのかを話題にする。上堰に入る水路のつくり方も、まっすぐ入るようにするとすぐに溢れるので、意識して受けをつくり下流に曲げてつくるなど、いろいろなところに知恵を出し合っていくことも必要であると考え。

(支所長)

まちづくり協働指針の作成に際しては我々支所の職員も参画することができると思うので、意見を参考とさせていく。災害では、今日の午前中に都市計画審議会があり出席したら、その中で、国も最上川についてはかなりの危機感を持っているようであった。座長に言わせれば、酒田市民は危機感が足りないとのこと。国土交通省では3か年の緊急対策で川の支障木を伐採や浚渫を始め、水害対策を講じているとのことであった。

(松本委員)

3点ほど要望と提言する。1点目、芸文協に限らず各コミュニティ振興会の活動についても防災行政無線等で全地域に広報してほしい。そうすれば地域間の交流も深まるものと考え。2点目、10月27日に松山城址館で行われた芸文協松山支部のステージ発表会の際の観客はほとんど松嶺地区の住民であった。さきほどデマンドの話も出たが、このような催しの際に地域間バスを走らせてもらえれば、もっと他の地域からの動員も見込めたと思われるので検討をお願いしたい。3点目、観光は人を当てにして失敗している例が沢山ある。人を当てにするのではなく地域住民で頑張っていくことが必要であり、地域が生き生きとしていると来訪する人も増えると考えている。このように既存の常識を疑ってみる地域づくりも必要であると考え。

(支所長)

地域間交流についてはコミュニティ振興会に担ってもらいたいと考えている。地域バスの運行については市の主催事業であれば市の責任においてバス運行できるが、それ以外の催しではなかなか難しい。

(小田会長)

にぎわい創出事業を行う際には、我々も参画できるように有機的な運営をお願いしたい。例えばくらふとフェア、にぎわいがあるとは言いながら、苦勞の割には地元で金銭が落ちることが無い。できればフェア開催時に鎧を着せてみる、大型の発電機を持っている人はそれを貸し出して賃借料をいただくなど、地元で金銭的な還元があるような事業を展開していただきたい。里仁館も同様である。交流事業の発表も学校の敷地内で行うのではなく、別の場所で市民に訴えるなどしてもよいと思う。これは要望である。

(支所長)

くらふとフェアの際には地元の商店にも出店を呼びかけているがなかなか参加していただけないといった歯がゆさがある。今日出席の齊藤薫委員がくらふとフェアの実行委員長として、地元の若者が中心となって頑張ってくれている。

(齊藤薫委員)

くらふとフェアも5年目を迎えた。最初は手探り状態からスタートしたが、課題としては地域を巻き込んで儲けるしくみを構築するということで意欲を出して出店してほしかった。駐車場から会場である歴史公園までのルートにある商店には出てきていただき、特別限定品と銘打った商品を販売してほしいといった狙いはあったし、今でもある。ただ、このことはまだ伝わっていない部分があるので、今後の課題としていきたい。

(小田会長)

くらふとフェア時にボランティアでガイドをおこなった際、参加した遊佐の婦人から「遊佐でも同様の事業を行っているが、このにぎわいは凄いな」と称賛された。そしてガイドをしながらまちを歩いている際にも、途中で飲み物売り場があったら良いなどのアイデアがあった。これはくらふとフェアに来ての副産物であるので、是非活動の中身を広げていただきたい。

(後藤吉委員)

交流人口の拡大はただ人が来るだけではだめで、それをどのように地域に落とししていくかを考えなければならないので試行錯誤が必要である。少し時間をかけながら、関連する部分をどうつなげていくかを考えていくことなので是非続けて頑張ってもらいたい。

また、交流の関係で2点ほど発言させていただきたい。1点目、松山ふるさと会交流促進事業で東京松山会と交流する意義、ふるさと納税の促進とか何らかの事業を行う際のクラウドファンディングの期待などがあると思うが、ふるさとのロコミの部分で大事ではないかと思う。5月の総会時には物産だけではなく、その年に開催される事業を映像などで紹介するのもいいと思う。2点目、鹿児島交流について、志布志市では旧松山だけでなく志布志市全体で受入を行っている。

志布志市では児童のリーダー研修のキャリアがあり、それを松山の交流の中に持ち込んでいる。難しいと思うが、事業効果の評価を大事にする必要がある。来年度、松山小学校だけでの受入が大丈夫と言っているので広げる必要はないのかもしれないが、交流のみならず子どもたちを育てるためのプログラムであるという発想も持ち込む必要がある。

(小田会長)

まだ発言されてない委員の方々に意見を伺っていく。

(齋藤吉委員)

里仁館の事業の中身がわからないのでなかなか参加できないといった声が結構聞こえてくるので、参考までにお知らせ願いたい。

(本間委員)

里仁館ではほぼ毎日のように講座を開設しているが、その6割は市街地の住民であり、松山地域はわずか2割である。中身は、毎年4月に新年度の講座のパンフレットを作成して受講申し込みを行っているが、自分たちが見ていても松山地域からの参加が少ないことは実感している。ただ、市街地から通ってきている人の意見を聞くと、生きがいのためとか向学心など、自己啓発意欲が強い人が多い気がする。興味があれば講座の見学をしていただくこともできる。

(阿部委員)

さきほど後藤委員からあった発言に関連して、東京松山会で「さんさん」のクラウドファンディングを募っていただきたい。また、大型客船が来港した際の松山地域への誘客策がないのか伺いたい。

(柿崎課長)

大型客船のツアーについては船会社が決めることになる。それ以外は港に着いてから行先を決めることになるので、こちらでできるのは、本庁経由で松山地域の魅力を船会社にプレゼンしてツアーに組み入れていただくようお願いすることである。

(支所長)

船会社が決めるということは会社自身が儲からないことはやらないということである。オプション料金は結構高いので、それだけのお金を払っても来たいと思えるようなおもてなしをする体制がなければ、まず誘客は無理である。現在の松山にはそれだけの体制が無いことから、現在、支所建設産業課で「おもてなし会議」を開催して何かできるかの話し合いを始めている。

(柿崎課長)

人を呼ぶための体制が地元にないとできないので、その土台づくりを行っている。

(阿部委員)

体験型の事業が喜ばれているとテレビで見た。それも検討の中に入れてほしい。

(柿崎課長)

その場合には、地元の人が体験事業の素材をつくることになるので、その体制づくりを行うことになる。

(富樫委員)

婦人会の事業の中に防災があるので、もっと力を入れなければならないと思っているが、みんな高齢ということ为先に口に出してしまうことから、実際にはあまりうまく行っていない。自分の住んでいる内町も土砂崩れ災害地域になっている。災害の際に自分がどこに避難してよいのかよくわからない。総光寺沢が氾濫した場合、果たしてコミュニティセンターまでたどりつけるのかの不安があり、途中で危険な箇所もたくさんあるので、1つではなく2つ、3つ考えて避難しなければならないと婦人会で話題にしたいと考えている。その関係の資料があればいただきたい。

(五十嵐補佐)

危機管理課では出前講座のメニューで「災害に備える」というものがある。その中で地元に特化した内容で話すことも可能なので希望を出していただければ対応する。

(小田会長)

確かに総光寺沢の砂防は役目を果たしていない。

(柿崎課長)

警報が出たらまず逃げることを考えていただきたい。動けるうちに動くことが大事である。

(本間委員)

この地域に来訪する客層は普段は比較的高齢の方が多いが、くらふとフェア時には、ベビーカーを押した若い親子連れが多数来場された。ただ遊ぶ場所が無かったことから、来て、見て、帰っていった。それを見て非常にいたましい気がした。若い親子連れは休日になると遊ぶところを求めて例え遠方であっても行くと聞いている。逆を言えば遊ぶところがあれば遠くからでも来ていただけることになる。大きい遊具は無理としても、何か工夫を凝らした遊具を眺海の森などに設置すれば若者を呼ぶこともできるのではないかと考えた。

(後藤吉委員)

松山にある施設を活用していろいろなイベントを組み合わせ、松山に来訪する機会を多くして松山に来ることに慣れてもらうことが肝要であると思う。

(平向委員)

松山保育園への待機児童の現状を教えてほしい。

(支所長)

現在のところ待機児童はいない。

(佐藤玲委員)

内郷地区の人たちは、なかなか他地域に行きたがらないという実情がある。そこで旧内郷小学校が適正に活用されて、内郷の人たちが集まって活力が出るようなになればいいなと思っている。

(後藤吉委員)

さんさんの指定管理が予算資料から抜けているのは、見込みがないからか。

(支所長)

交流観光課が窓口となって指定管理者を探しているが、まだ決まっていないためである。

(松本委員)

南部地区地域づくり推進モデル事業では、どのようなことを行っていてどのような成果があるのか、また、自分たちにも参考になることが取組みあるのかをお伺いしたい。

(支所長)

各コミ振間での情報共有は行っている。

(齋藤明委員)

興味があれば説明するので、是非、南部コミュニティセンターにお出でいただきたい。

(平向委員)

民生委員、児童委員を経験した立場で10年前からコミュニティ振興会活動に関わってきた。その立場で発言する。南部地区は10数年前から地見興屋小学校の維持には限界があることを感じていたため、地域全体でその後の活用について話し合ってきた。その中でコミュニティセンターの老朽化移転の課題があったので、先進地視察を行い、やっと2、3年前から具体的な動きを行ってきた。皆さんには是非来ていただいて参考にさせていただければと思っている。

(松本委員)

喫茶「笑楽香(しょうがっこう)」にはいつでも行っていいのか。

(齋藤明委員)

営業は週末のみである。

(小田会長)

その他、無いでしょうか。無いようですので、本件については終了します。

続きまして、「(2) その他」に入ります。

(柿崎課長)

～「市道山田1号線工事完了のお知らせ」について、資料に基づき説明～

(小田会長)

何か質問ありますか。

(齋藤明委員)

国道345号線の片側交互通行はいつまでか。

(柿崎課長)

はっきりとはわからない。

(阿部委員)

この件について放送はあるのか。

(柿崎課長)

放送は特に予定していないが、チラシで対応することになっている。

(堀補佐)

チラシは、山寺地区及び松嶺地区は全戸配布、南部地区及び内郷地区は回覧で対応する。

(出嶋補佐)

～「第36回阿部次郎文化賞受賞記念講演会への案内」について、資料に基づき説明～

(小田会長)

何か質問ありますか。

～質疑無し

5 その他

(小田会長)

予定していた案件は以上ですが、委員の皆さんから何かありますか。

～誰からも発言無し～

6 閉会

(小田会長)

それでは、これもちまして第3回松山地域協議会を終了いたします。委員の皆さま方には円滑な議事進行にご協力を賜りありがとうございました。